

信仰が
あろうと
なかろうと

その躰が
自然から
与えられた
事実は

決して
変わらない

故に人も
自然の一部で

神には決して
逆らえはしない

まじ

神奈子。

……

ふふ……
そんな怖い顔
しないでよ

今日は
どうして欲しい？

まじ
まじ



何言ったって
無駄じゃないの

いつも

どうせ

諏訪子の
好きに
するんだから

まあ
そう言わないでよ
神奈子

私、

あなたの
胸が好きなの

豊かな自然の
ごとき

山に

谷に

川も

ん…

すべて

この豊かな自然を
見てるとね

私の気分も
どんどん高揚
してくるんだ

あっ

ん…

う…



ああ
やっぱ好き

んっ
んっ

神奈子の
豊かな胸

やわらかい

あったかい...

んっ
んっ

んっ
んっ



はあっ

びっ

こうやって
強くされるのも
好きだもんね

神・奈・子

んっ
んっ

んっ
んっ



汗も
どどん
出てきた

神奈子の体は
いつも素直に
反応するよね

んっ
んっ



んっ
んっ

体が
熱いよ?

んっ
んっ

そして
始めは
せせらぎだった
小さな川も

やがて
大きな濁流を
生み始めるんだ

……っ

ほらほら
神奈子

見違えるほどに
大きく育った
あなたのお豆

いっぱい
垂れ流しながら
ひくひく
してるよ？

神奈子に
見せられないのが
残念だよ……

ととと

んんん

！！





